

第 55 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議 議事録

日時:令和 3 年 9 月 8 日(水)12:10～12:50

会場:オンライン開催 日本原子力学会「2021 年秋の大会」A 会場

議事内容

1. 杉山部会長挨拶

2. 令和 3 年度活動報告

2.1 企画報告

2.1.1 企画 A

大会・年会における企画セッション, 2021 年秋の大会のプログラム編成の活動状況について報告した。

①大会・年会における企画セッション

・2021 年秋の大会

バックエンド部会主催の企画セッションとして, 「秋の大会」を開催することを報告した。プログラムは以下の通り。

・1日目:9月8日(水)13:00-14:30 座長:杉山 大輔(電中研) バックエンド部会 企画セッション 「研究施設等廃棄物の現状と埋設事業へ向けた取り組みについて」		
(1) なぜ、地層処分なのか？—セーフティケースの役割	(NUMO)	草野由貴子
(2) セーフティケースへの情報統合—NUMO 包括的技術報告書を例として	(NUMO)	藤山哲雄
(3) 安全コミュニケーションに関するパネル討論	パネリスト: (原安協) 朽山 修 (神戸大) 飯塚 敦 (深田地質研究所) 下茂 道人 (広島大) 半井 健一郎 (大阪大) 廣野 哲朗 (東海大) 若杉 圭一郎	

・2022 年春の年会

2022 年春の年会での企画セッションについて, 企画のアイデア・希望を運営委員まで連絡するよう依頼した。

②プログラム編成

2021 年秋の大会のプログラム編成について, 以下の編成委員のご尽力を得たことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー
505-1	放射性廃棄物処理	金山 文彦(JAEA)	小林 大志(京大) 近藤 陽太(日立 GE)

505-2	放射性廃棄物処分と環境	尾上 博則(NUMO)	桜木 智史(原環センター) 千田 太詩(東北大)
505-3	原子力施設の廃止措置技術	川崎 大介(福井大)	中村 保之(JAEA) 早野 明(JAEA)

2.1.2 企画 B

第 37 回バックエンド夏期セミナー開催実績について報告した。

①第 37 回バックエンド夏期セミナーの開催実績

- ・ 日時:2021 年 8 月 26 日(木)有料セッション、27 日(金)無料セッション
- ・ 場所:オンライン開催
- ・ 参加者: 157 名(延べ 263 名)
- ・ テーマ:福島第一原子力発電所の事故後 10 年の歩みと今後のバックエンドの取り組み
- ・ Web 会議の利点を活用し、LIVE での開催に加えオンデマンドで動画を配信
- ・ 8 月 26 日(木) :参加登録者 123 名
 - ・ 講演:4 件
 - 東電 HD 齋藤典之様
 - 北大 渡辺直子准教授
 - NDF 加藤和之様
 - JNFL 小澤孝様
 - ・ ポスターセッション:8 件
ポスター、ショートプレゼンテーション、ブレイクアウトルームにおける意見交換、質疑、上記の内容について優秀なポスターの表彰を春の年会で行う
- ・ 8 月 27 日(金) :参加登録者 140 名
 - 環境放射能除染学会連携シンポジウム「除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた技術開発と研究の方向性」講演資料・講演再録:部会ホームページ(夏期セミナー)に掲載
 - ・ 講演:5 件
 - 国環研 遠藤和人様
 - 除染学会研究会/国環研 山田一夫様
 - JESCO 日置潤一様
 - IRID/JAEA 黒木亮一郎様
 - JNFL 小澤孝様
 - ・ 総合討論:
 - 国環研 大迫政浩様
 - 国環研 遠藤和人様
 - 除染学会研究会/国環研 山田一夫様
 - IRID/JAEA 黒木亮一郎様
 - JNFL 小澤孝様
 - ・ 講演資料は部会ホームページ(夏期セミナー)に掲載予定
 - ・ 講演再録、セミナー参加記は部会誌次号に掲載予載

- ・ 参加状況
 - ・ 無料セッションは非会員の参加者が多い傾向
(2 日目の無料セッション開催により、参加者を多く呼び込めた)
 - ・ 学生の参加人数が少ない
(大学院入試、試験日程等への考慮を行うことを検討)

2.1.3 企画 C

ポジション・ステートメント WG(PSWG)の活動について報告した。

①ポジション・ステートメント委員会(PSWG)

- ・ ポジション・ステートメント WG (PSWG)は、日本原子力学会が発信するポジション・ステートメント(PS)について、その必要性、妥当性等について検討し、広報情報委員会に提案する役割を担っている。バックエンド部会の代表として、企画 C の担当者が PSWG の一員として活動している。
- ・ バックエンド部会から提案している PS は、「ガラス固化体の性能」、「廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について」、「クリアランス」、「高レベル放射性廃棄物の地層処分」であり、適宜進めている。
- ・ クリアランス【解説】:
 - PSWG のコメントに対応し、改訂版(rev7)を PSWG に上程 (2019.7月)
 - 広報情報委員会で審議、了承。HP に掲載済。
 - 昨年度の原子力学会秋の大会のポスターセッションにて解説。
- ・ 廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について【解説】:
 - PSWG に上程 (2018.7 月)。
 - 分かり易さの観点からコメントを受け、BE 部会小委にて改訂。再度 PSWG に上程済。
- ・ 高レベル放射性廃棄物の地層処分、ガラス固化体の性能:
 - 包括的技術報告書の内容を勘案しつつ、今後の進め方について協議中。

2.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動及び令和3年度週末基礎講座の開催案内、委員の交代について報告した。

①令和 2 年度部会 HP 小委員会活動について

(1)部会ホームページ([http:// nuce.aesj.or.jp](http://nuce.aesj.or.jp))の管理・運用

- ・ お知らせ・会議案内 :夏期セミナー開催案内掲載
- ・ 部会誌「原子力バックエンド研究」 記事・論文等の公開
- ・ 2020 年度バックエンド部会活動報告・部会表彰の選定結果の掲載
- ・ 部会長挨拶・部会長便りの掲載

(2)バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

- ・ 配信実績 :令和 3 年度 13 件(3/4-9/6), 配信先 439 名(R3/9/1 現在)
- ・ お知らせとお願い

メール配信開始/停止, アドレス変更は部会員からの申告によって行います。(部会加入と連携していません)配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

メール配信ご希望の方、アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail: info@nuce.aesj.or.jp (部会ホームページをご覧ください)

(3) ホームページ小委員会メンバーの紹介

氏名	所属	来歴	役割
榊原 哲朗	原子力機構	広報委員(2020～)	HP 更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
岩田 孟	原子力機構	広報委員(2021～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
笹川 剛	原子力機構		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HP サーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HP サーバー運用・管理

②令和3年度週末基礎講座

・開催目的・主旨

-放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。

-当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや, 新たに業務や研究に携わる方々だけでなく, すでにこの分野でご活躍の方々に, 改めて関連する知識を確認されたい方など, 広くご参加いただけます。

-新型コロナウイルスの感染が収束する見込みが立たないため、昨年度同様、本年度もオンラインで開催致します。

・ 日程: 令和3年 11 月 12 日 (金) 9:00 頃～17:00 頃 (予定)

・ 場所: オンライン開催 (Zoom ミーティング)

・ 参加費: 正会員 1,000 円 (不課税), 非会員 2,000 円 (税込)、学生無料

2.3 出版報告

委員の交代、部会誌「原子力バックエンド研究」の発行状況について報告した。

①委員の交代

昨年度と同規模の体制(16名)

2021 年度 役割分担詳細版

役職名	仕事概要	名前	所属
編集長	全体の工程管理	川崎 大介	福井大学
副編集長	査読付き論文ハンドリング	鷹尾 康一郎	東京工業大学
委員長	全体の取り回し、運営小委・学会事務局との連絡	湊 大輔	電力中央研究所
	査読なし原稿ハンドリング		
副委員長	委員長補佐 + 工程管理補助	藤社 進	(株) IHI
出版幹事	原稿 (査読あり原稿は査読終了後、査読なし原稿は受領後) の出版 (先行公開および	関口 高志	戸田建設 (株)

	部会誌) に向けての事務的仕事の統括		
	フォロー	中田 弘太郎	電力中央研究所
編集幹事	レイアウトを統括	北城 諒一	日本原燃(株)
レイアウト 担当	レイアウトの実施、原稿のレイアウト確認	西尾 光	原子力発電環境整備機構
		持田 泰孝	日本エヌ・ユー・エス株式会 社
		中島 均	清水建設(株)
		山田 淳夫	(株) 安藤・間
CD 化 J Stage	CD 化、J-Stage、会計を統括	石寺 孝充	日本原子力研究開発機構
	論文の CD 化	山田 文香	原子力環境整備促進・資金管 理センター
	査読付き論文等の J-stage への登録	邊見 光	日本原子力研究開発機構
会計担当	支出、収入の会計処理	清水 洋平	(株) ダイヤコンサルタント
HP	HP 関連	古川 静枝	電力中央研究所

※敬称略 下線が新委員

②部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.28 No.1 (2021 年 6 月)

→ホームページにて公開中

No2 を併せて年末に CD を作成・配布の予定

<巻頭言>

- ・ “共有”雑感 杉山大輔

<特集;2020 年度バックエンド週末基礎講座>

- ・ 会議参加記
- ・ 「2020 年度バックエンド週末基礎講座」参加報告 中島貴弘

<講演再録>

- ・ 地層処分の工学技術および性能評価研究 杉浦佑樹

<会議参加記>

- ・ 日本原子力学会 2021 年 春の年会バックエンド部会企画セッション
除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた技術開発と研究の方向性
黒田知真

<会告>

- ・ 令和 2 年度バックエンド部会表彰
バックエンド部会 関連行事予定

③部会員の皆様へのお願い

部会誌のさらなる内容充実にご協力をお願いします

- ・ 積極的な投稿(情報発信の場としての活用)をお願いします。

- ・ 概ね 40 歳までの研究者・学生の論文は、論文賞のみならず奨励賞の対象となります。
- ・ 査読へのご協力をお願いします
- ・ 特集テーマのご提案をお願いします

論文の投稿または部会誌へのご意見/ご要望等は下記メールへ

journal@nuce.aesj.or.jp

2.4 庶務報告

海外発表助成制度、研究会支援制度の実施状況と 2021 年春の年会の優秀講演賞について報告した。

①海外発表助成制度

- ・ 若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- ・ 半期あたり原則 1 名を対象に 13.5 万円を限度に助成
- ・ 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・ 2020 年度実績
 - 上期分(2 月 10 日締切):応募なし
 - 下期分(8 月 10 日締切):応募なし
- ・ 2021 年度実績
 - 上期分(2 月 10 日締切):応募なし
 - 下期分(8 月 10 日締切):応募なし

②研究会支援制度

- ・ 部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- ・ 研究会の費用を年間 13.5 万円までを目安に支給
- ・ 会期は最長 3 年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- ・ 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・ 2020 年度実績:応募なし
- ・ 2021 年度予定:8 月末時点で応募なし

③優秀講演賞

- ・ 優秀講演賞を 1 名選出
- ・ 学生会員対象とした学生優秀講演賞を 1 名選出(2017 年秋の大会より)

	バックエンド対象講演数※	内,学生会員 講演数
2021 年 秋の大会	107	25
2021 年 春の年会	77	23
2020 年 秋の大会	99	15
2020 年 春の年会		

※「放射性廃棄物」、「廃炉(廃止措置)」、「地層処分」のいずれかのワードを含む一般セッションにおける発表

各座長の採点結果に基づき、本大会における学生優秀講演賞、優秀講演賞を選出

⇒ 2021 年春の年会、秋の大会の優秀講演賞を 2022 年春の年会全体会議において表彰予定

2.5 会計報告

通常予算収支、セミナー予算収支、全体収支の報告を行った。

＜通常予算収支＞

- ・ 収入の部:6月発行部会誌への論文掲載がなく、受取掲載料はゼロであったため、当初予算額よりも収入は少ない状況。
- ・ 支出の部:主に部会HP用レンタルサーバー代の支出。部会誌への論文掲載がなかったことから、J-stage 登録費などの支出は無し。
- ・ 上期(4月～9月)について、今後の支出予定を考慮しても、上期の支出計画額約23万円を超過することはないと予想されるため、計画通りで問題なし。

通常予算収支（8月末実績値）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	0	旅費交通費	0
受取配分金	343,000	通信運搬費	5,358
		消耗品費	0
		一般外注経費	0
		雑費	330
		支払助成金(事)	0

＜小計＞	343,000	5,688
＜当初予算額＞	593,000	900,000
＜執行率＞	58%	1%
＜収支＞		337,312

円

＜セミナー予算収支＞

- ・ 今年度も夏期セミナーおよび週末基礎講座はWEB開催であるため、収入および支出については当初予算額よりも大幅減となる。
- ・ 夏期セミナーについては、約12万円の黒字となる見込み。
- ・ 週末基礎講座についても、昨年度WEB開催実績を踏まえると、赤字とはならない見込み。
- ・ 年度収支としても黒字となる見込みであり、問題なし。

セミナー予算収支（9月速報値）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	150,000	会議費	0
		通信運搬費	9,180
		消耗品費	0
		一般外注経費	4,000
		出展費	0
		賃借料	13,200
		雑費	0

＜小計＞	150,000	26,380
＜当初予算額＞	1,760,000	1,453,000
＜執行率＞	9%	2%
＜収支＞		123,620

円

＜全体収支＞

- ・ セミナー収支について、当初計画では約 30 万円の黒字を想定していたが、約 15 万円減となる見込みである。しかし、今年度は海外発表助成の申し込みが無かったこと、会議体の WEB 開催による旅費の支出減などにより、約 30 万円の支出減が見込まれることから、下半期の支出予定を考慮しても、年度収支は黒字となることが予想される。
- ・ 引き続き適正な予算管理に努める。

全体収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常予算	343,000	通常予算	5,688
セミナー予算	150,000	セミナー予算	26,380

＜合計＞	493,000	32,068
＜当初予算額＞	2,353,000	2,353,000
＜執行率＞	21%	1%
＜収支＞		460,932

円

2.6 審議事項

なし

3. その他

令和 3 年度上期の活動報告の内容は、全体会議にて承認された。

以上